



子どもから大人まで さわやかな汗

5月下旬、閉小学校運動会、霧出、七ヶ谷、川北、女川地区の郷民運動会が各小学校のグラウンドを会場に開催され、子どもから大人まで大勢の方が参加しました。

運動会は、来年四月に小学校が統合されるため、小学校と各地区の住民合同での開催は今年が最後。五月二十三日に土沢小学校グラウンドで行



集落ごとに分かれ、子どもから大人まで力を合わせて競争した「郷民コミュニティレース」
(5月23日・土沢小学校グラウンド)

われた、閉校記念きりで大運動会に参加した佐藤優太さん(土沢小六年・大島)は、「土沢小学校と地域の最後の運動会となつてさみしいけど、心に残る運動会にしたいです」と、閉校を惜しみながらも、趣向をこらした競技にそう快な汗を流し、子どもたちと地域の皆さんとの交流を図っていました。

各地で閉校記念の大運動会

投稿

「みんなで考えよう」

地球温暖化

平田 時 夫(滝原)

森林の変化

「未来には、ゆたかな森にあえるかな」。これは、平成二十一年度緑の募金標語で、上越市立直江津南小学校五年生の小沼廉君の作品です。

私たちの身のまわりで毎日の暮らしと強くつながっているのが「環境」です。それは、空気や水、木、草、さまざまな生物、川、沼、湖、山、海などの自然がまず挙げられます。これを「自然環境」といいます。

近年、私たちの里山が一変しています。「承知のように、森林は二酸化炭素を吸収し、酸素を放出するという「同化作用」をしています。最近、緑豊かな周辺の山々が、これから夏にかけてナラ枯れを起こし、秋の紅葉のように赤茶けてしまっています。環境を傷つけている原因をみんな

考えてみましょう。

周辺の里山のナラ枯れは、現在がピークといわれています。被害の拡大は、地球温暖化によって病原菌を持ち込む「カシノナガキクイムシ」の活動範囲が広がったことも一因と見られています。(新潟日報三月十六日付け里山一変より)

五月十八日、新潟日報の朝刊で佐渡のトキ特集を読んだ。放鳥されて間もなく八か月だが、環境の変化で「トキはどこでも必死で餌を求めているが、人が近づきすぎて寝ぐらが一定しないこともあった。住みやすい環境を求め続けているのではないか？」と、書かれていました。緑の減少により、動植物にも大きな影響を与え滅びてしまわないよう、速やかにその対策が必要とさ

れます。

平田大六村長は、平成二十一年度の施政方針で、化石燃料に代わるエネルギー開発として「バイオマスタウン構想」を述べられています。また、議会だよりにも先進地視察の報告が掲載されていました。やたらとカタカナ語が使用され、私たち高齢者が理解に苦しむ。環境にやさしいことをいう前に、やさしい説明があつてこそ環境問題に関心が深まると思います。バイオマスを新辞典で引くと、「エネルギー資源として見た生物体。生物由来資源」とある。そこから判断し、理解しなければなりません。

関川村は自然環境に恵まれた村です。四月上旬に鷹の巣公園へカタクリの花の散策に行つた時びっくりしました。素晴らしい自然百選の森が激減しています。大切なナラの木が、この三年間で急速に枯れ始め、トータル三百五十本伐採予定とのことです。

大自然が少しずつ滅び始めています。「明日ではエゴは間に合わない」。続きは次回お話ししたいと思います。

関川村ホタルの会（伊藤四郎会長）が、村内のホタル生息地の指定箇所に標柱を設置しました。



これは、村内各地のホタル生息地を十年間観測した結果、ホタルがたくさん見られる場所を判定。その結果、下川口

優雅な光を見に来てください
マイロード
ホタル舞道を指定

関川村ホタルの会

と山本地内の村道沿線の二箇所を「ホタル舞道（マイロード）」に指定したものです。指定箇所には、自然環境の保護や里山の大切さなど、大勢の村民に認識してもらいたいとの思いから、標柱を設置しました。伊藤会長は「ホタル生息地を指定したことで、自然を大切にす意識の醸成に少しでも役立てられれば幸いです」と話していました。

今年、家族そろって優雅な「ホタルの光（ゆらぎ）」に接して、心身の充電をしてみたいかがですか。

ありがとうございます
ごぞいます
学童支援金の寄付

荒川鮭有効利用調査委員会

四月十七日、荒川鮭有効利用調査委員会（山田俊治郎委員長）から村に、学童支援助



成金として十萬円の寄付金が贈呈されました。

これは、昨年十一月十五日から十二月二十五日まで、日本一の清流・荒川で行われた「サケ釣獲調査」の収益金の一部を学童支援に役立ててほしいと、寄付されたもの。

サケの釣獲調査が行われているのは全国でも八河川。なかでも荒川のサケ釣りは、大規模でダイナミックな釣りが楽しめると好評で、全国から約千八百人が訪れました。

贈呈には山田委員長が訪れ「村の子どもたちのために使っていたきたいと思えます」と、平田大六村長に目録が手渡されました。

ありがとうございました。

ありがとうございます
桂の関温泉ゆ～む
入館者 200万人達成

桂の関温泉ゆ～むの入館者が、5月3日、200万人に達しました。これは平成9年7月のオープンから11年10か月での達成です。

記念すべき200万人目に来館した幸運の方は、赤間孝弘さん（宮城県大郷町）。記念品としてコシヒカリ4kg入りのミニ俵と女川ハム、光兔もち、しいたけの詰め合わせが平田大六村長から贈られました。

赤間さんは、お子さん3人と新潟へ観光に訪れたとのことで「ゆ～むを利用するのは今回初めてですが、とてもびっくりしました」と、思わぬプレゼントに、驚いたようすでした。



▲記念品を受け取った赤間さんご一家

ゆ～む入館200万人達成まで

- ▷平成9年7月18日 オープン
- ▷平成12年1月2日 50万人
- ▷平成14年8月20日 100万人
- ▷平成17年11月5日 150万人
- ▷平成21年5月3日 200万人